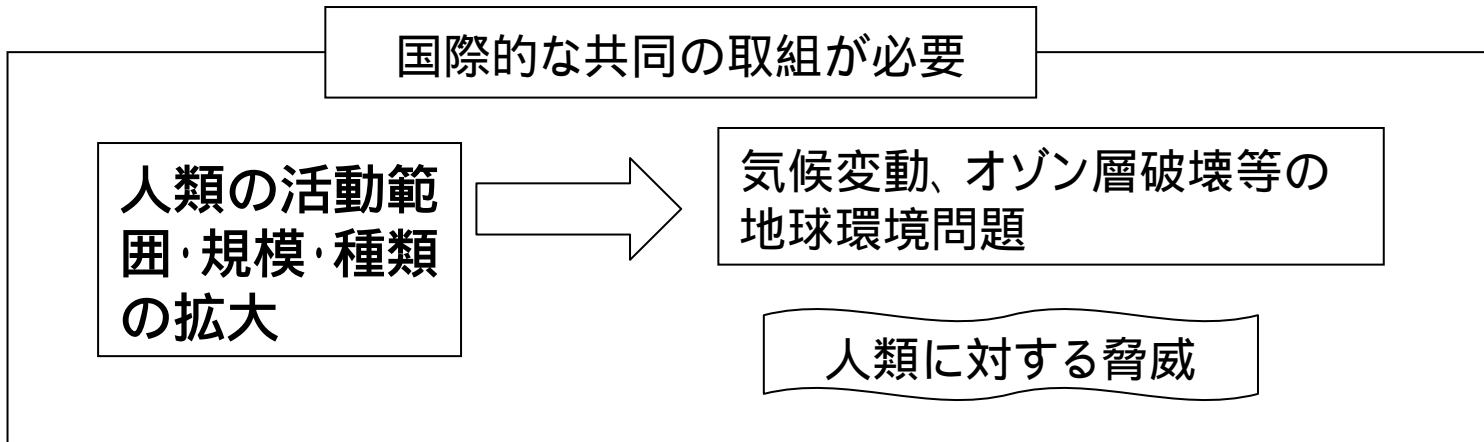


# 地球観測に関する枠組み

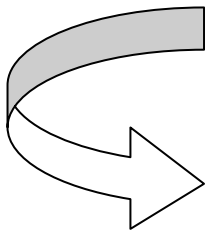
## 地球観測とは

- 地球環境問題への対応  
(地球環境変動の監視・検出、影響予測等)
- 自然災害の監視
- 気象・海象の定常観測
- 地図の作成
- 資源探査及び資源管理
- 地球科学的な知見の充実

# なぜ地球観測をするのか？



持続可能な開発の基本： 環境保全と社会・経済開発

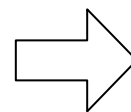


政策決定者への提供

地球環境の実態把握、環境変動機構の解明、科学的知見の充実に基づく高い信頼度の将来予測、等

## 人工衛星からの地球観測

- 全地球的な観測が可能
- どこでも均質な観測データ



人工衛星は地球観測の重要なツール

# 地球観測に関する世界の動き(1)

## 持続可能な開発

一国のみでは対処が困難で、本質的に国際的な共同の取組が必要とされる

1992年 リオ・デ・ジャネイロ国連環境開発会議

環境保全と社会・経済開発が、持続可能な開発の基本であるとの合意

2002年 ヨハネスブルグ世界首脳会議

持続可能な開発に関する宣言の採択

包括的な行動指針をしめす実施計画書の採択

2003年 エビアンG8サミット(G8行動計画)

「持続可能な開発のための科学技術」についての行動計画の採択

(今後10年間の各国の地球観測計画の調整、実施計画を策定すること)

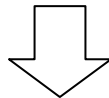
## ヨハネスブルグ実施計画

- 地球温暖化に関するIPCC(気候変動に関する政府間パネル)に対する支援
- 気候変動監視、水資源管理、災害防止に役立てる下記の取組みを要求
  - ・ 適切な体制による組織的観測や国際共同観測
  - ・ 科学的知見の向上
  - ・ 情報(データ)の共有
  - ・ 観測技術の途上国へのキャパシティビルディング、など
- 地球観測技術の開発と幅広い利用の推進  
(衛星リモートセンシング、地球地図、地理情報システムを含む)

# 地球観測に関する世界の動き(2)

エビアンサミットで合意されたG8行動計画(地球観測関連部分)

- 全球観測についての国際協力の強化
- ・ 今後10年の全球観測戦略の調整と、新たな観測の特定
- ・ 大気、大地、淡水、海洋及び環境システムについて、信頼性のあるデータの作成
- ・ 既存システムの観測空白域の解消
- ・ データ共有の相互運用性確保
- これらの目的を達する実施計画の策定



2003年8月 ワシントン地球観測サミット  
今後10年の実施計画作成作業開始  
2004年春 東京閣僚級会合  
10年実施計画の骨子作成  
2004年秋 欧州閣僚級会合  
10年実施計画策定

## 我が国の取組み

我が国の地球観測戦略策定  
地球観測調査検討ワーキング  
グループ(総合科学技術会議)

- 平成15年9月開始
- 必要に応じて中間取りまとめ
- 約1年間で取りまとめ  
(我が国の地球観測戦略策定)

## 当面の課題

10年実施計画対応  
地球観測国際戦略策定検討会  
(事務局:文部科学省)

# 総合科学技術会議での対応(1) 枠組み

## 分野別推進戦略(環境分野)

- 地球温暖化研究(温暖化総合モニタリングプログラム)
  - ・アジア太平洋地域を中心とするモニタリング体制
  - ・国際協力によるデータの蓄積と利用・提供ネットワークの確立
- 地球規模水循環変動研究(全球水循環観測プログラム)
  - ・衛星観測、海洋観測、陸上調査・モニタリング等、組織的観測の推進
  - ・観測データの相互利用が可能な全球水循環観測システムの構築
  - ・アジアモンスーン地域を中心としたデータの蓄積の推進

## 今後の宇宙開発利用に関する取組みの基本について

- 人工衛星の開発利用のあり方(地球環境監視)
  - ・地球温暖化の原因物質の継続的な観測の実施
  - ・排出源・吸収源の活動の適時・的確な監視・評価
  - ・汚染物質の発生や移動状況の把握
  - ・国際協力による水循環の継続的観測、気象予測精度の向上
  - ・センサ技術の高度化、**観測データの系統的な蓄積**、解析技術の向上
- 宇宙利用の戦略的な拡大
  - ・資源探査や農林水産業利用、国土管理などの利用分野において、産学官連携の下、共同研究や実証プロジェクトなどの拡大
  - ・アジア地域を含めた国際協力・国際貢献の積極的な推進

観測データの系統的な蓄積  
等について

参考資料14 - 1参照

## 総合科学技術会議での対応(2)

